

新城市民病院の先生方、コメディカルの方々、事務の方々には新年度の多忙な時期にも関わらず、様々なご指導をしていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。4週間は本当に短く感じられ、瞬く間に過ぎ去りました。

毎日実施される総合診療科で診察した外来全症例の振り返り、作手診療所の訪問、訪問リハビリ、訪問看護への同行等、普段の勤務ではできない多様な経験をすることができました。

外来症例の振り返りでは、先生方の前で参加する全員が毎日プレゼンし、診療した内容について議論します。普段勤めている病院で行っている救急外来ではフィードバックを受ける機会があまり多いとは言えませんでした。毎日振り返りに参加することにより、どうすればより良い診察になるか、自分の足りていない部分は何かといったことを自覚しました。振り返りで復習して次の日の診療に生かし、また振り返るというサイクルを構築することで日々少しずつ成長するのを感じることができました。

また EBM の大家、名郷先生が来院され、EBM がどのようなものであるかを教えていただき、実際の診療を見せていただきました。診察の随所に EBM に基づいた知見がちりばめられており、患者さんを安心させるような診察をされているのが印象的でした。また EBM の講義では論文を 1 分で把握できる方法をご教授いただきました。今後実践できるよう訓練していく所存です。

私はこれまで病院外で患者さんと向き合うことはありませんでした。今回は病院外へ赴く機会が多数設けられており、普段目にすることのない貴重な経験ができました。

中でも訪問看護や訪問リハビリでは見学するのみならず、実際にお手伝いをさせていただきました。退院後に患者さんがどのように生活されているか、看護師の方や理学療法士の方がどのようなことに注意し、どのように仕事されているかを目の当たりにしました。特に、クモ膜下出血後で全く歩けなかった方がリハビリの結果、杖歩行をできるようになっていたのは印象的でした。

院内、院外での研修を通じて印象的だったのが、東三河地域における医療や介護の需要に対する人員の少なさです。高齢化により医療や介護を必要とする人々の数は増加の一途をたどっているにも関わらず、過疎化により人員の確保が難しくなっています。介護施設でやや高齢と思われる方が超高齢者を介護している光景が心に残っています。

そうした状況をいかに打開するかが、今後社会全体で検討すべき課題と感じました。

今回の研修では普段の診療に関することに加え、退院後に院外で患者さんになされているケア、へき地医療の抱える問題等多種多様なことを学ぶことができました。

最後になりましたが、4週間丁寧にご指導いただいた皆様方に御礼申し上げます。